



Mutsu General Hospital

むつ総合病院



## 研修医日記

作成者：山一 真彦（2年次）

皆さん、こんにちは。山一です。

突然ですが、1918年に有島武郎は「小さき者へ」を発表しました。

結びは次のような文章です。

…前途は遠い。そして暗い。然し恐れてはならぬ。恐れない者の前に道は開ける。行け。  
勇んで。小さき者よ。

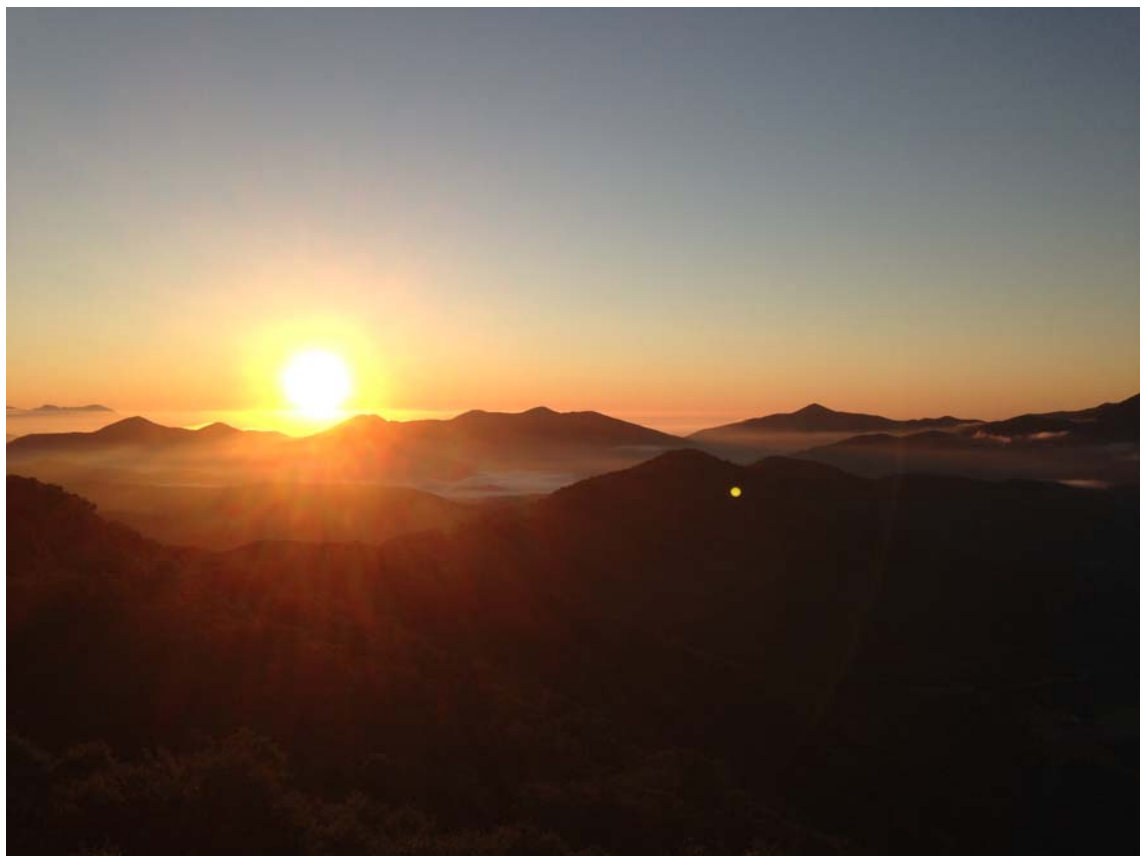
それから27年後の1951年、清沢哲夫は「道」を発表しました。

アントニオ猪木もいつの日か読んだであろう詩です。

此の道を行けば どうなるのかと 危ぶむなかれ  
危ぶめば 道はなし  
ふみ出せば その一足が 道となる その一足が道である  
わからなくても 歩いて行け 行けば わかるよ

いつの時代も、人は迷い、そして決断をしながら歩を進めているのだと実感します。上の2つの文章は人生に迷っている人の背中を押してくれる力強いメッセージであるように思います。

臨床研修もはや2年目の9月。4分の3の期間が過ぎてしまいました。もはや迷っている場合ではないと思いつつも一歩を踏み出すことができず逡巡している自分がいます。今日も答えがでないままいつもの一杯を吞んでいます。



北海道にて トナム雲海テラスより

※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。